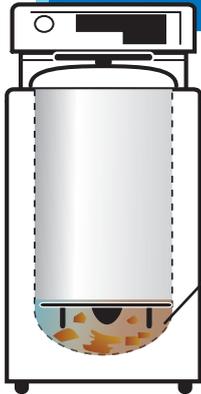


オートクレーブ洗浄液の使い方

滅菌用水の確認！

1

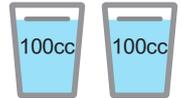


滅菌用水が汚れている場合は、水を交換する

洗浄液の使用量

2

オートクレーブ機種名	滅菌用水量目安	付属カップの目安
FLS-1000	約 6.0 L	4 杯 (400cc)
SX・LSX-700	約 3.6 L	2 杯 (200cc)
SX / LSX / BSX-500 SX / LSX-300 ES-315・LBS-325 BS-305 / 325・MSS-325	約 3.0 L	
ES-215・LBS-245 BS-235 / 245	約 1.5 L	



運転開始

3

規定量の滅菌用水（水道水）と洗浄液を、缶体内に入れる

スノコ（底板）が浸るまで水を入れて運転。スノコもきれいになります。



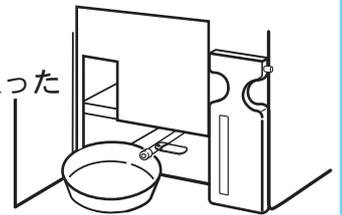
121℃ 20 分の設定で運転を開始

運転終了後、5～8 時間ほど浸け置きするとさらに汚れも柔らかくなり落ちやすくなります。

運転終了

4

終了後、洗浄液の入った滅菌用水を排水

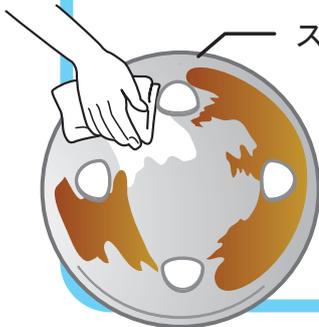


注意

運転直後の滅菌用水は高温のため、十分冷めてから排水を行ってください。やけどの原因となります。

缶体内およびスノコ（底板）の清掃

5



スノコ（底板）

- スノコをゆっくり取り出す
- 柔らかい布で浮き上がった缶体内およびスノコの汚れをふき取り、水道水で十分に洗い流す



注意

※清掃する前には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電の原因になり危険です。
※1 回の洗浄で汚れが落ちない場合は、上記手順を繰り返して洗浄してください。

応急処置

- 目に入ったときには、こすらず流水でよく洗い流し、異常があれば医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだときは、吐かずに口をすすぎ、牛乳か水を飲むなどの応急処置を行い医師の診断を受けてください。
- 洗浄液が皮膚についた場合は、直ちに流水でよく洗い流し、異常があれば医師の診断を受けてください。

オートクレーブ洗浄液「廃液処理」

廃液処理前の準備

1

清掃前にはゴム手袋、保護メガネを必ず着用して下さい。

- ・重曹 100g (市販品)
- ・排水容器 1個 (洗面器など)
- ・バケツ 1個
- ・計量カップ (100cc 以上)
- ・混ぜ棒 1本

滅菌用水の排水 1

2

排水口に排水容器を準備する。

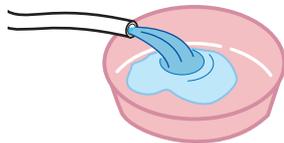


注意

運転直後の滅菌用水は高温のため、十分冷めてから排水を行ってください。やけどの原因となります。

滅菌用水の排水 2

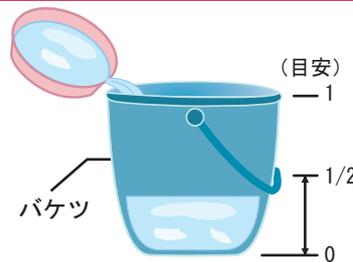
3



排水キャップ、または排水コックを開けて洗浄後の滅菌用水を排出する。

滅菌用水をバケツ (処理槽) に移す

4



中和時に大量の泡が発生するため、バケツに廃液を移します。



※滅菌用水の量がバケツの半分 (1/2) 以下となるようにする。

廃液処理 1

5



滅菌用水の入ったバケツに重曹を少しずつ加え、ゆっくりかき混ぜる。



かき混ぜる

- ※ 1 回分 (200ml) の洗浄液につき、重曹 100g (計量カップでおよそ 100ml) を目安とする。
- ※ 大量の泡が発生するため少しずつ様子を見ながら何回かに分けて重曹を加える。(発生した気体：二酸化炭素)
- ※ 重曹を大量に入れすぎた場合、中和後に残った重曹が溶けるため pH 最大値は 8.2 ~ 8.4 まで上昇する。

廃液処理 2

6



反応が落ち着いた後、中和した滅菌用水を廃棄する。

- ※ 規定の作業を実施した際の pH 値は概ね 6.5 ~ 7.0 となる。
- ※ 正確な値を算出する場合は、pH 計等を使用する。
- ※ 環境省に規定されている廃棄基準は pH 5.8 以上 8.6 以下。

注意 ※清掃する前には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電の原因になり危険です。

作業中の注意

- ・清掃の際は、ゴム手袋、保護メガネを着用して手、目を保護してください。目に入ったときには、こすらず流水でよく洗い流し、異常があれば医師の診断を受けてください。
- ・飲み込んだときは、吐かずに口をすすぎ、牛乳か水を飲むなどの応急処置を行い医師の診断を受けてください。
- ・洗浄液が皮膚についた場合は、直ちに流水でよく洗い流し、異常があれば医師の診断を受けてください。